

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

21.02.2005

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて
いる事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed
with this Office.

出願年月日 2003年11月20日
Date of Application:

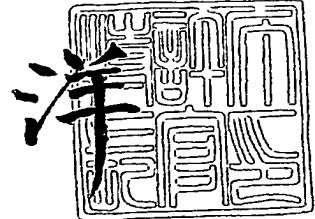
出願番号 特願2003-391215
Application Number:
[ST. 10/C]: [JP2003-391215]

出願人 T H K 株式会社
Applicant(s):

2005年 3月31日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

小川



BEST AVAILABLE COPY

出証番号 出証特2005-3028261

【書類名】 特許願
【整理番号】 THK15-056
【あて先】 特許庁長官殿
【国際特許分類】 F16C 29/06
【発明者】
 【住所又は居所】 東京都品川区西五反田3丁目11番6号 THK株式会社内
 【氏名】 道岡 英一
【発明者】
 【住所又は居所】 山梨県中巨摩郡玉穂町中権754 THK株式会社 甲府工場内
 【氏名】 八代 大輔
【発明者】
 【住所又は居所】 東京都品川区西五反田3丁目11番6号 THK株式会社内
 【氏名】 廣川 忠
【発明者】
 【住所又は居所】 山梨県中巨摩郡玉穂町中権754 THK株式会社 甲府工場内
 【氏名】 斎藤 圭昭
【特許出願人】
 【識別番号】 390029805
 【氏名又は名称】 THK株式会社
【代理人】
 【識別番号】 100087066
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 熊谷 隆
 【電話番号】 03-3464-2071
【選任した代理人】
 【識別番号】 100094226
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 高木 裕
 【電話番号】 03-3464-2071
【手数料の表示】
 【予納台帳番号】 041634
 【納付金額】 21,000円
【提出物件の目録】
 【物件名】 特許請求の範囲 1
 【物件名】 明細書 1
 【物件名】 図面 1
 【物件名】 要約書 1
 【包括委任状番号】 0011353

【書類名】特許請求の範囲**【請求項 1】**

長手方向に沿って転動体転走面が形成された軌道レールと、多数の転動体を介して該軌道レールに相対移動自在に組み付けられた移動ブロックとを備え、該移動ブロックは、前記転動体転走面と共に、負荷転動体転走路を形成する負荷転動体転走面と、該負荷転動体転走面に対応する転動体逃げ孔が形成された移動ブロック本体と、該移動ブロック本体の転走面に取り付けられた側蓋とを備えた構成の案内装置において、

前記両側蓋の前記相対移動方向外側に先端が前記軌道レールの表面に接触するブラシ部材を具備し、該ブラシ部材で該軌道レール表面に付着した異物を除去する端面防塵ブラシを取付けたことを特徴とする案内装置。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の案内装置において、

前記端面防塵ブラシはケーシングと複数の前記ブラシ部材を具備し、該ケーシング内に該複数のブラシ部材を前記相対移動方向に所定の間隔を設けて配置したことを特徴とする案内装置。

【請求項 3】

請求項 2 に記載の案内装置において、

前記端面防塵ブラシの複数のブラシ部材のうち、前記相対移動方向外側に配置したブラシ部材は線径が太く、且つ硬度が高いブラシ線材を密度が疎に配置された構成であり、内側に配置されたブラシ部材は該外側ブラシ線材に比較し線径が細く、且つ硬度が低い線材を密度が密に配置された構成であることを特徴とする案内装置。

【請求項 4】

請求項 1 乃至 3 のいずれか 1 項に記載の案内装置において、

前記端面防塵ブラシの各ブラシ部材は前記軌道レールの断面形状に適応し、その先端が確実に該軌道レールの表面に当接できるように複数のブラシ分割体から構成されていることを特徴とする案内装置。

【請求項 5】

請求項 1 乃至 4 のいずれか 1 項に記載の案内装置において、

前記端面防塵ブラシと前記側蓋の間には他のシール部材等の付属部材が配置されていることを特徴とする案内装置。

【請求項 6】

請求項 1 乃至 5 のいずれか 1 項に記載の案内装置において、

前記移動ブロック本体に、先端が前記軌道レールの長手方向側面に接触し、該軌道レール側面と前記移動ブロックの長手方向内側面の間の隙間を閉塞する側面防塵ブラシを設けたことを特徴とする案内装置。

【書類名】明細書

【発明の名称】案内装置

【技術分野】

【0001】

本発明は軌道レールと該軌道レールに転動体を介して相対移動自在に組み付けられた移動ブロックとを備えた案内装置に関するものである。なお、ここで相対移動自在とは、軌道レールを固定し移動ブロックを移動自在にする場合、移動ブロックを固定し軌道レールを移動自在にする場合等移動ブロックと軌道レールが相対的に移動する場合を指す。

【背景技術】

【0002】

図1に示すように軌道レール101に多数の転動体（ボールやローラー）を介在させて相対移動自在に組み付けられた移動ブロック102を備えた案内装置がある。このような案内装置においては、移動ブロック102は軌道レール101に跨いだ状態で組み付けた移動ブロック本体103と、その相対移動方向両端に軌道レール101を跨いだ状態で取付けた側蓋104、104と、該側蓋104、104の相対移動方向外側に軌道レール101に跨いだ状態で取り付けた潤滑油供給装置105、105、該潤滑油供給装置105、105の相対移動方向外側に軌道レール101に跨いだ状態で取り付けた防塵部材106、106を具備する構成である。

【0003】

防塵部材106、106は軌道レール101の側面（上面及び両側面）と移動ブロック102の両端部の内周面の隙間から異物が移動ブロック102内に侵入するのを防止する作用を奏するものであり、該防塵部材106、106は潤滑油が含浸した弾性部材と、該弾性部材を潤滑油供給装置105、105の間に挟み込む補強部材とからなる。

【特許文献1】特開2000-227115号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

上記のように従来の案内装置の防塵部材106、106は潤滑油が含浸した弾性部材を具備するため、石膏やセラミック粉のような微細な粉塵の多い環境下では、該粉塵と潤滑油が混ざり合って固まってしまい、案内装置が早期に破損してしまうという問題があった。

【0005】

本発明は上述の点に鑑みてなされたもので、石膏やセラミック粉のような微細な粉塵が多い環境下で、油分のない若しくは油分を嫌う環境下でも、防塵性能を発揮し、該粉塵が移動ブロック内に侵入することなく、長寿命で且つ信頼性の高い案内装置を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

上記課題を解決するため請求項1に記載の発明は、長手方向に沿って転動体転走面が形成された軌道レールと、多数の転動体を介して該軌道レールに相対移動自在に組み付けられた移動ブロックとを備え、該移動ブロックは、転動体転走面と共に、負荷転動体転走路を形成する負荷転動体転走面と、該負荷転動体転走面に対応する転動体逃げ孔が形成された移動ブロック本体と、該移動ブロック本体の前記相対移動方向の両端に取り付けられた側蓋とを備えた構成の案内装置において、両側蓋の前記相対移動方向外側に先端が軌道レールの表面に接触するブラシ部材を具備し、該ブラシ部材で該軌道レール表面に付着した異物を除去する端面防塵ブラシを取付けたことを特徴とする。

【0007】

請求項2に記載の発明は、請求項1に記載の案内装置において、端面防塵ブラシはケーシングと複数のブラシ部材を具備し、該ケーシング内に該複数のブラシ部材を相対移動方

向に所定の間隔を設けて配置したことを特徴とする。

[00081]

【0008】 請求項3に記載の発明は、請求項2に記載の案内装置において、端面防塵ブラシの複数のブラシ部材のうち、相対移動方向外側に配置したブラシ部材は線径が太く、且つ硬度が高いブラシ線材を密度が疎に配置された構成であり、内側に配置されたブラシ部材は該外側ブラシ線材に比較し線径が細く、且つ硬度が低い線材を密度が密に配置された構成であることを特徴とする。

[0 0 0 9]

【0009】 請求項4に記載の発明は、請求項1乃至3のいずれか1項に記載の案内装置において、
端面防塵ブラシの各ブラシ部材は軌道レールの断面形状に適応し、その先端が確実に該軌道レールの表面に当接できるように複数のブラシ分割体から構成されていることを特徴とする。

[0010]

請求項5に記載の発明は、請求項1乃至4のいずれか1項に記載の案内装置において、端面防塵プラシと側蓋の間には他のシール部材等の付属部材が配置されていることを特徴とする。

(0011)

【0011】 請求項6に記載の発明は、請求項1乃至5のいずれか1項に記載の案内装置において、移動ブロック本体に、先端が軌道レールの長手方向側面に接触し、該軌道レール側面と移動ブロックの長手方向内側面の間の隙間を閉塞する側面防塵ブラシを設けたことを特徴とする。

【発明の効果】

[0012]

請求項1に記載の発明によれば、両側蓋の相対移動方向外側に先端が軌道レールの表面に接触するブラシ部材を具備し、該ブラシ部材で該軌道レール表面に付着した異物を除去する端面防塵ブラシを取付けたので、軌道レール表面に付着した異物はブラシ部材により掃き取られ除去されるから、移動プロック内に侵入することがない。

[0013]

【0013】
請求項2に記載の発明によれば、端面防塵ブラシはケーシングと複数のブラシ部材を具備し、該ケーシング内に該複数のブラシ部材を相対移動方向に所定の間隔を設けて配置したので、先行するブラシ部材で掃き取られなかった異物は次のブラシ部材との間の間隔空で一旦開放され次のブラシ部材で掃き取られるから、異物の除去率が向上する。

[0014]

【0014】 請求項3に記載の発明によれば、端面防塵ブラシの複数のブラシ部材のうち、相対移動方向外側に配置したブラシ部材は線径が太く、且つ硬度が高いブラシ線材を密度が疎に配置された構成であり、内側に配置されたブラシ部材は該外側ブラシ線材に比較し線径が細く、且つ硬度が低い線材を密度が密に配置された構成であるので、外側に配置したブラシ部材で軌道レール表面に付着した比較的大きな異物を掃き取り、該外側のブラシ部材で除去できなかつた微細な異物を内側に配置された線径が細く、且つ硬度が低い線材を密度を密に配置したブラシ部材で拭い取るように除去できるから、異物の除去率が向上する。

(0015)

【0015】
請求項4に記載の発明によれば、端面防塵ブラシの各ブラシ部材は複数のブラシ分割体で構成されるから、軌道レールの断面形状に適応し、その先端が確実に該軌道レールの表面に当接させることができ、異物の除去率が向上する。

[0016]

【0016】
請求項5に記載の発明によれば、端面防塵ブラシと側蓋の間には他のシール部材等の付属部材が配置されているので、これらの付属部材に侵入する異物も除去でき、案内装置の機能を良好な状態に維持できる。

[0017]

【0017】請求項6に記載の発明によれば、先端が軌道レールの長手方向側面に接触し、該軌道レ

ール側面と移動ブロックの長手方向内側面の間の隙間を閉塞する側面防塵ブラシを設けたので、上記端面防塵ブラシと共に、移動ブロックの全周内側面と軌道レール表面（上面及び両側面）との間の隙間からの異物の侵入を防止でき、案内装置の機能を更に良好な状態に維持できる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0018】

以下、本発明の実施形態例を図面に基づいて説明する。図2乃至6は本発明に係る案内装置の構成を示す図で、図2は外観斜視図、図3は一部切欠側面図、図4は図3のA-A矢視断面図、図5は図3のB-B矢視断面図、図6は移動ブロックの平面図である。11は軌道レールであり、該軌道レール11には長手方向に向かって移動体（ポール）が転走する複数本（図では4本）の転動体転走溝12-1～12-4が形成されている。

【0019】

20は軌道レール11に移動自在に組み付けられた移動ブロックであり、移動ブロック20は移動ブロック本体21と、該移動ブロック本体21の移動方向両端に取り付けられた側蓋22、22と、該側蓋22、22の移動方向外側に取り付けられた中間プレート23、23、該中間プレート23、23の移動方向外側に取り付けられた防塵部材24、24、該防塵部材24、24の移動方向外側に取り付けられた端面防塵ブラシ25、25を具備する構成である。

【0020】

移動ブロック本体21は図4に示すように、軌道レール11の長手方向に直交する断面がコ字状で開口部両側にスカート部28-1、28-2が形成された形状で、該軌道レール11に跨って組み付けられるようになっている。また、移動ブロック本体21には図に示すように、軌道レール11に形成された転動体転走溝12-1～12-4と共に、負荷転動体転走溝27-1～27-4を形成する複数本（図では4本）の負荷転動体転走溝27-1～27-4が形成され、負荷転動体転走溝27-1～27-4に対応する数の転動体逃げ孔29-1～29-4が形成されている。

【0021】

側蓋22は軌道レール11の長手方向に直交する断面がコ字状で、軌道レール11に跨った状態で移動ブロック本体21の両端に取り付けられている。該側蓋22、22には軌道レール11の転動体転走溝12-1と移動ブロック本体21の負荷転動体転走溝27-1とで形成される負荷転動体転走路31-1と転動体逃げ孔29-1を連通させ転動体循環路を形成する転動体方向転換路30-1、30-1、軌道レール11の転動体転走溝12-2と移動ブロック本体21の負荷転動体転走溝27-2とで形成される負荷転動体転走路31-2と転動体逃げ孔29-2を連通させ転動体循環路を形成する転動体方向転換路30-2、30-2、軌道レール11の転動体転走溝12-3と移動ブロック本体21の負荷転動体転走溝27-3とで形成される負荷転動体転走路31-3と転動体逃げ孔29-3を連通させ転動体循環路を形成する転動体方向転換路30-3、30-3、軌道レール11の転動体転走溝12-4と移動ブロック本体21の負荷転動体転走溝27-4とで形成される負荷転動体転走路31-4と転動体逃げ孔29-4を連通させ転動体循環路を形成する転動体方向転換路30-4、30-4が形成されている。転動体（ポール）32は軌道レール11及び移動ブロック20の相対移動に伴って転動体循環路内を循環する。

。

【0022】

中間プレート23、23は側蓋22と端面防塵ブラシ25、25の間に介在するプレートであり、軌道レール11の長手方向に直交する断面がコ字状で、軌道レール11に跨った状態で側蓋22、22の移動方向外側に取り付けられ、軌道レール11の表面には非接觸した状態で側蓋22、22は軌道レール11の表面に付着した異物等が移動ブロック20内に侵入するのを防ぐもので、軌道レール11の長手方向に直交する断面がコ字状で、軌道レール11に跨った状態で、中間プレート23、23の移動方向外側に取り付け、内周面は軌道レール11の表面に接触している。

[0 0 2 3]

【0025】 端面防塵ブラシ25、25は後に詳述するように、軌道レール表面に付着するセラミック粉等の異物を掃き取るブラシ部材を内部に収容したもので、軌道レール11の長手方向に直交する断面がコ字状で、ブラシ部材の先端が軌道レール11の表面に接触し、軌道レール11に跨った状態で防塵部材24、24の移動方向外側に取り付けられている。また、側蓋22、中間プレート23、防塵部材24、及び端面防塵ブラシ25は全体がカバー26で覆われている。

[0 0 2 4]

33は側面防塵ブラシであり、移動ブロック本体21のスカート部28-1、28-2の下端面にビス34、34で取付け、ブラシ部33aの先端面が軌道レール(図4参照)の側面長手方向に接触し、移動ブロック20内側面と軌道レール11側面との間の隙間から内部に異物が侵入するのを防ぐためのものである。

[0025]

図7及び8は端面防塵ブラシ25の構成例を示す図で、図7(a)は正面図、図7(b)乃至(f)はブラシ分割体の構成例、図8は一部切欠側面図である。端面防塵ブラシ25はブラシケーシング35内に複数個(図では3個)のブラシ部材36-1~36-3を所定の間隔d、dを設け配列した構成である。移動ブロック20の移動方向の最も外側に配置したブラシ部材36-1のブラシ部36-1aのブラシ線材の線径は太く且つ硬度が高く(硬く)、更に密度が疎に配置されている。最も内側のブラシ部材36-3のブラシ部36-3aのブラシ線材は線径が細く且つ硬度が低く(柔らかく)、更に密度が密に配置されている。そして中間のブラシ部材36-2のブラシ部36-2aのブラシ線材の線径、硬度、線密度はブラシ部材36-1とブラシ部材36-3の中間とする。

【0026】

上記のようにブラシケーシング35内に複数個のブラシ部材36-1～36-3を所定の間隔d、dを設けて配列しているので、先行するブラシ部材36-1で比較的大きく貼り付き易い異物を除去し、該ブラシ部材36-1で除去できなかった異物は間隔dの空間で一旦開放され、次のブラシ部材36-2で除去され、ここでも除去されなかった異物は更に間隔dの空間で開放され、次のブラシ部材36-3で除去されるから、殆どの異物は硬除去されることになる。また、各ブラシ部材36-1～36-3のブラシ線材の線径、硬除去することで、貼り付き易く比較的大きい異物は、外側の線径が太く、質、密度を変えて配置するので、貼り付き易く比較的大きい異物は、外側の線径が太く、硬く、密度が疎の外側のブラシ部材36-1で除去し、該ブラシ部材36-1で除去されなかった異物は中間のブラシ部材36-2で、該ブラシ部材36-2で漏れた異物は最も内側の線径が細く、柔らかく、密度が密なブラシ部材36-3で除去されるから、セラミック粉等の異物を効率よく除去することが可能となる。

[0027]

【0027】 プラシ部材 36-1 は図 7 に示すように、軌道レール 11 の断面形状に対応して複数個 (図では 5 個) の プラシ分割体 A~E で構成されている。なお、図示は省略するが、 プラシ部材 36-2 及び プラシ部材 36-3 も 同様に 5 個の プラシ分割体 で構成されている。 このように プラシ部材 36 を複数の プラシ分割体 A~E で構成することにより、 断面形状が複雑な 軌道レール に対しても プラシ線材の先端を 軌道レール 11 の全表面に 確実に当接させることができる。

[0 0 2 8]

図9は側面防塵ブラシの構成例を示す図である。側面防塵ブラシ33は長尺の枠体33bにブラシ部33aを設けた構成であり、その長さL1は移動ブロック本体21と両端に取り付けられた側蓋22の合計寸法L2より若干長くなっている($L1 > L2$) (図3参照)。このような構成の側面防塵ブラシ33をそのブラシ部33aの先端が軌道レール1の側面に当接(接触)し、枠体33bをビス34で移動ブロック本体21のスカート部28-1、28-2の端部(下端)に取り付け、更に枠体33bの両端部を中間プレート23、23にビス37、37で固定する(図3及び図4参照)。

[0029]

上記のようにブラシ部 33a の先端が軌道レール 11 の長手方向側面に当接し、該軌道レール 11 の長手方向側面と移動プロック 20 の長手方向内側面との隙間を閉塞する側面防塵ブラシ 33 を設けることにより、この隙間から侵入しようとする異物も除去でき、端面防塵ブラシ 25 と共に、移動プロックの全周内側面と軌道レール側面との間の隙間から内部に侵入しようとする異物の侵入を防止でき、移動プロック 20 と軌道レール 11 の間に介在する多数の転動体の滑らかな転動や、防塵部材 24、24 と軌道レール 11 間の滑らかなすべり等案内装置の機能を更に良好な状態に維持できる。

【0030】

本発明は上記実施例に制約されず種々の態様が可能である。例えば本実施例では転動体にボール 32 を用いる例を説明したが、転動体はボールに限定されるものではなく、ローラーであってもよい。また、上記例では軌道レール 11 が固定され、移動プロック 20 が移動する案内装置を示したが、移動プロック 20 を固定して軌道レール 11 が移動するようにしてよい。

【図面の簡単な説明】

【0031】

【図 1】従来の案内装置の構成例を示す外観斜視図である。

【図 2】本発明に係る案内装置の構成例を示す外観斜視図である。

【図 3】本発明に係る案内装置の構成例を示す一部切欠側面図である。

【図 4】図 3 の A-A 矢視断面図である。

【図 5】図 3 の B-B 矢視断面図である。

【図 6】本発明に係る案内装置の移動プロックの構成例を示す平面図である。

【図 7】本発明に係る案内装置の移動プロックの端面防塵ブラシの構成例を示す図である。

【図 8】本発明に係る案内装置の端面防塵ブラシの構成を示す一部切欠側面図である。

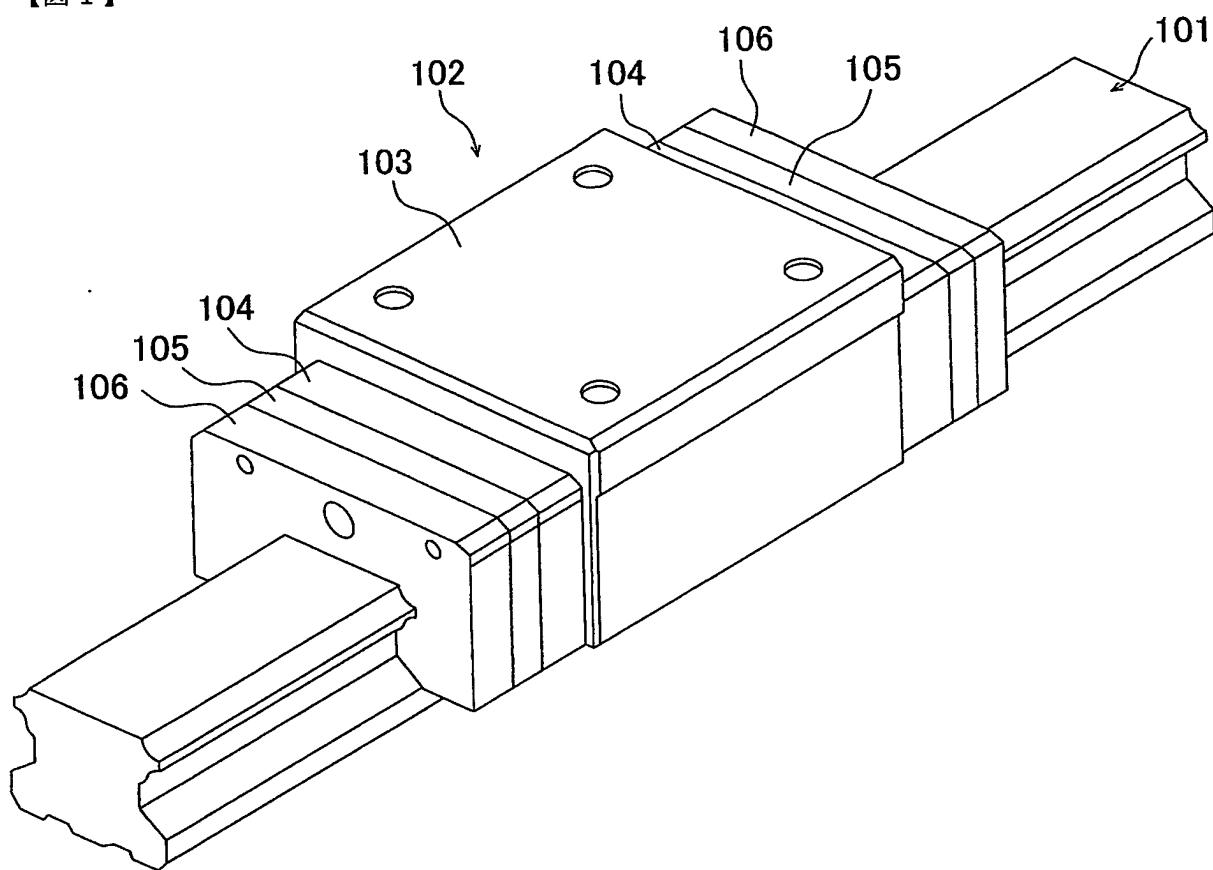
【図 9】本発明に係る案内装置の側面防塵ブラシの構成例を示す図である。

【符号の説明】

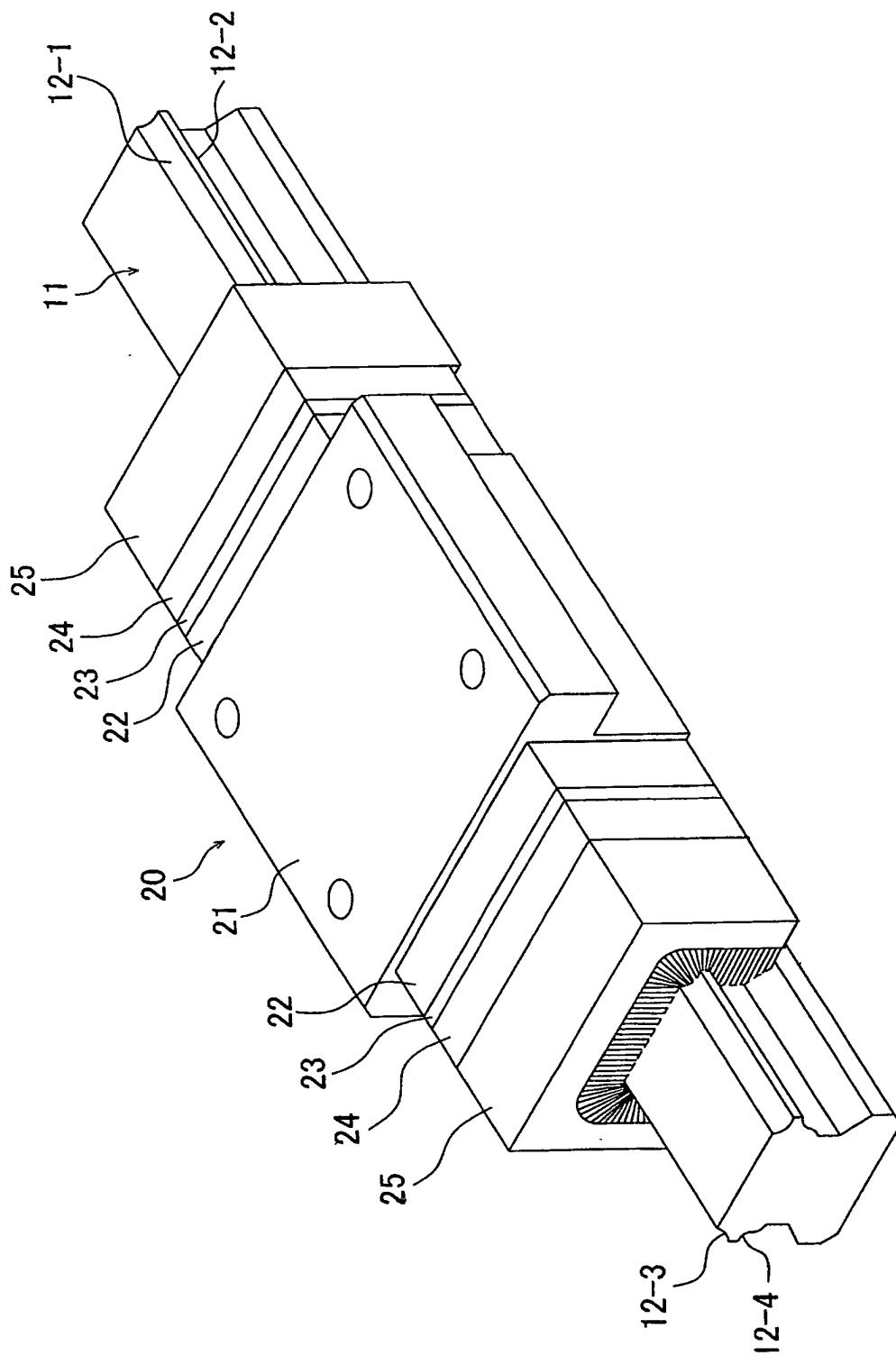
【0032】

11	軌道レール
12	転動体転走溝
20	移動プロック
21	移動プロック本体
22	側蓋
23	中間プレート
24	防塵部材
25	端面防塵ブラシ
26	カバー
27	負荷転動体転走溝
28	スカート部
29	転動体逃げ孔
30	転動体方向転換路
31	負荷転動体転送路
32	転動体（ボール）
33	側面防塵ブラシ
34	ビス
35	ブラシケーシング
36	ブラシ部材

【書類名】図面
【図1】

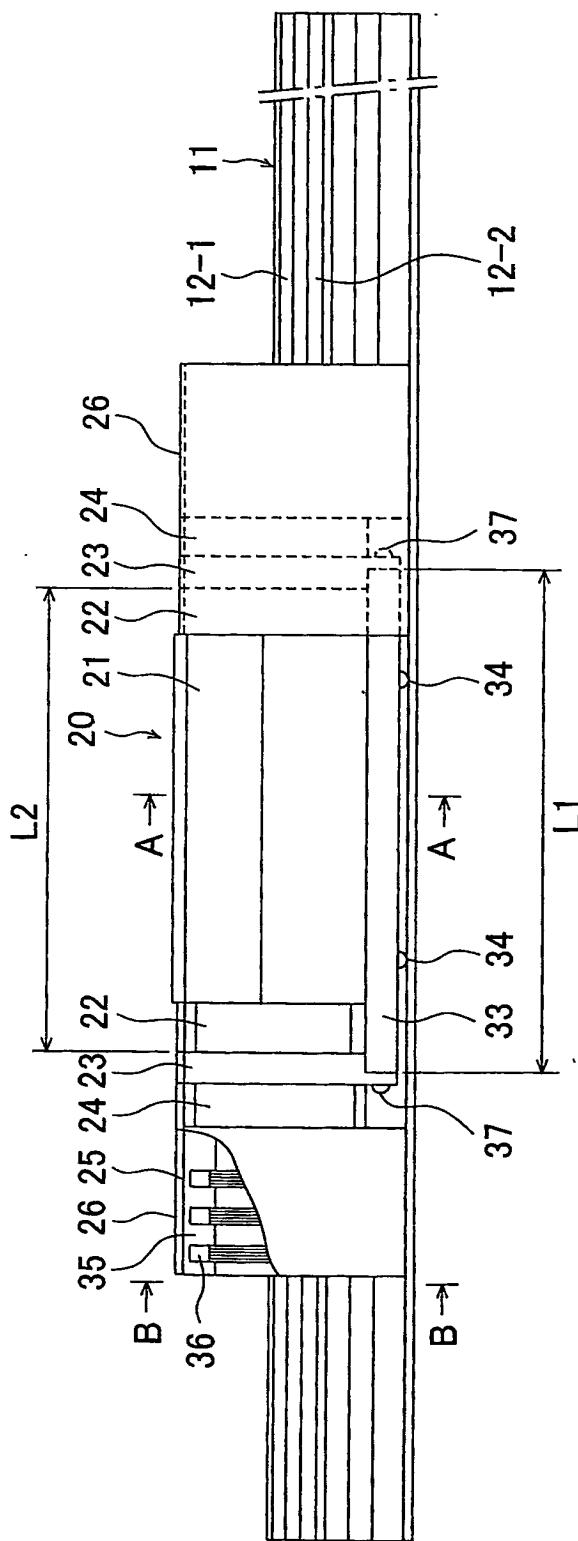


【図 2】



本発明に係る案内装置

【図3】



本発明に係る案内装置

【図4】

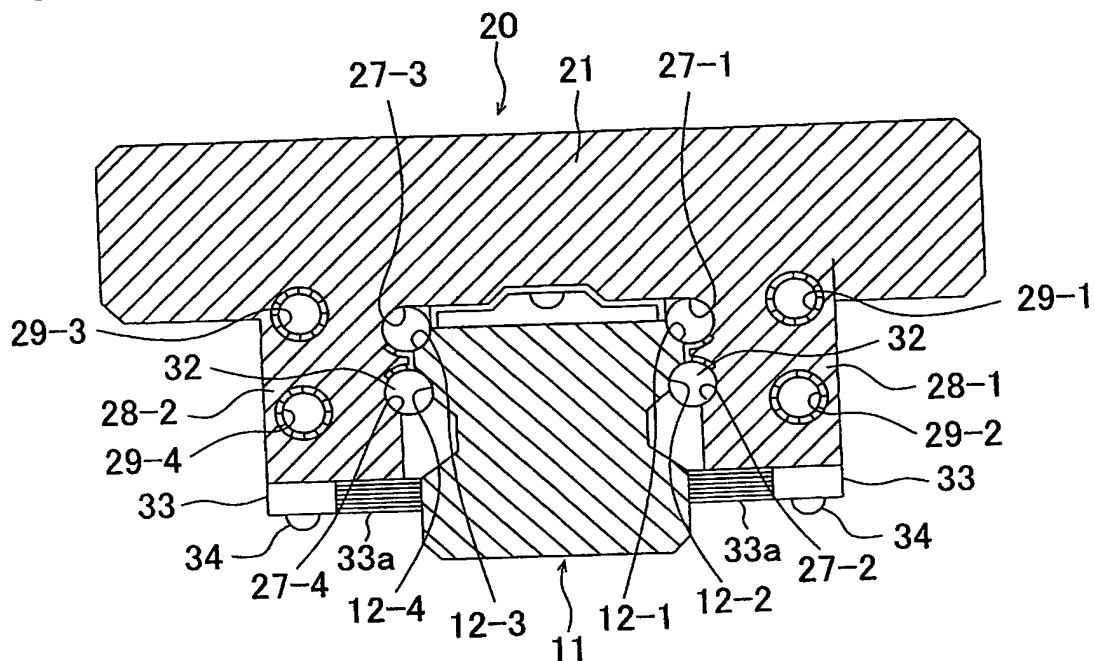


図3のA-A矢視断面

【図5】

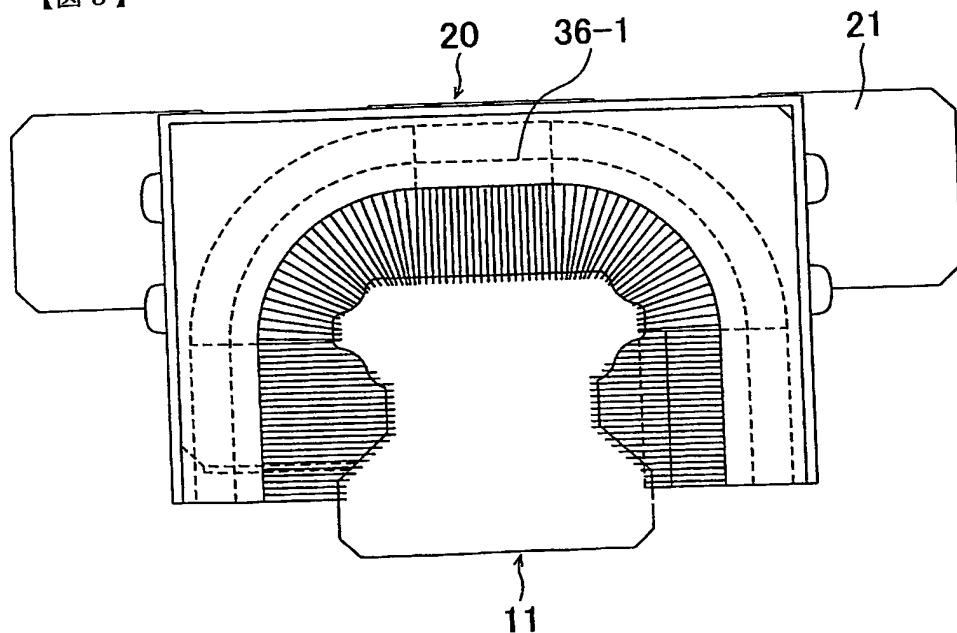
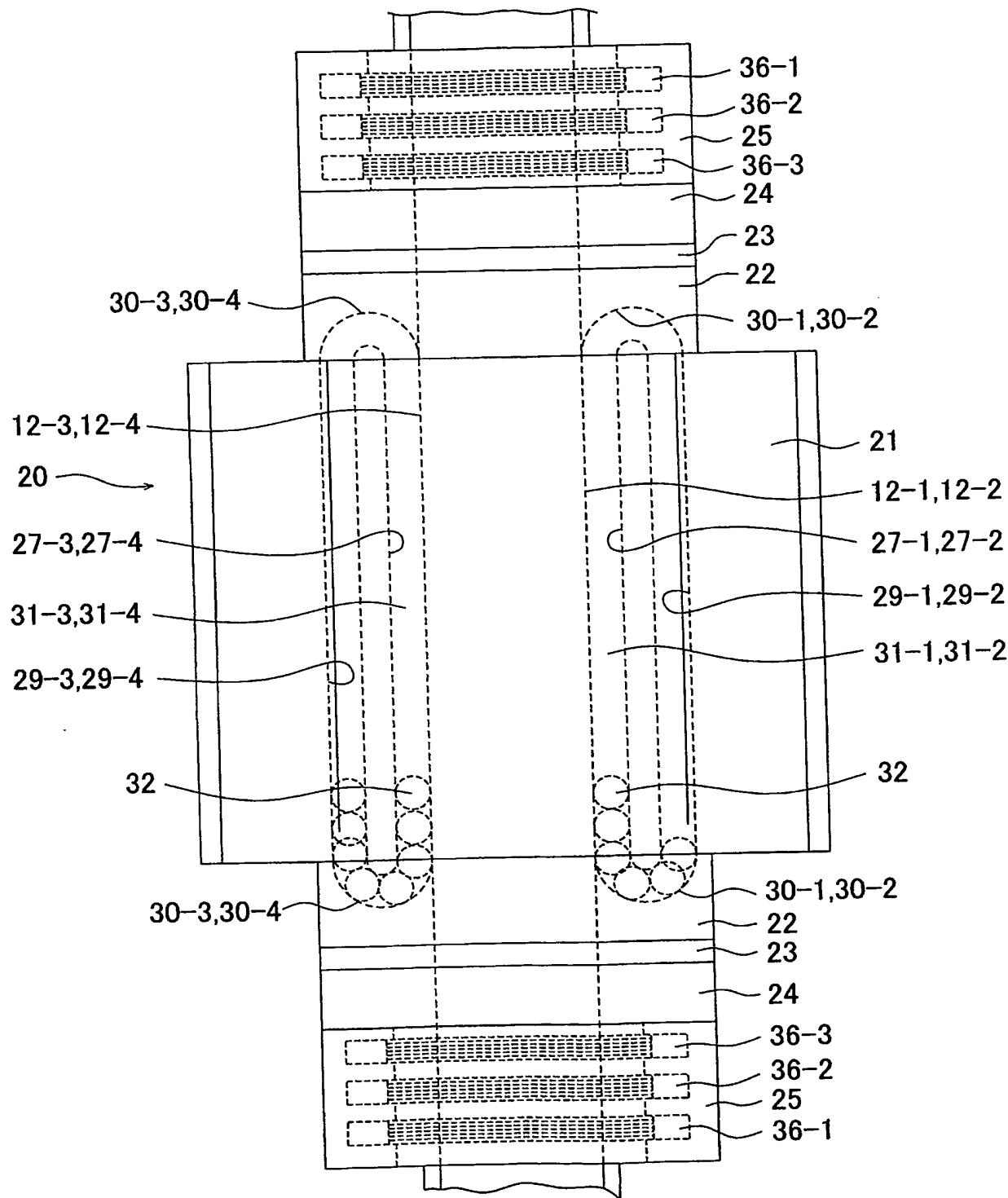
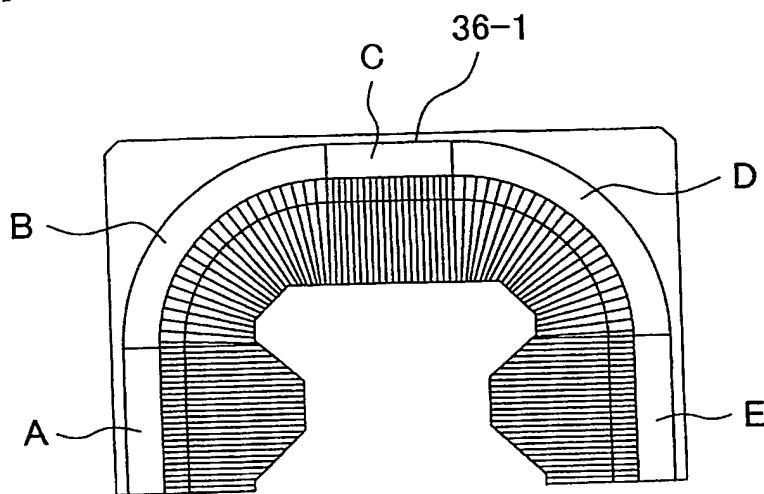


図3のB-B矢視断面

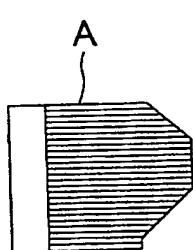
【図 6】



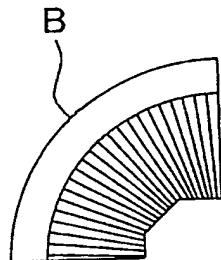
【図7】



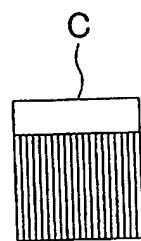
(a)



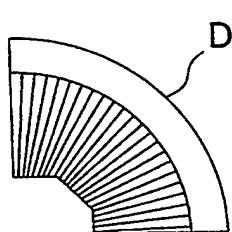
(b)



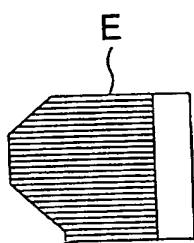
(c)



(d)

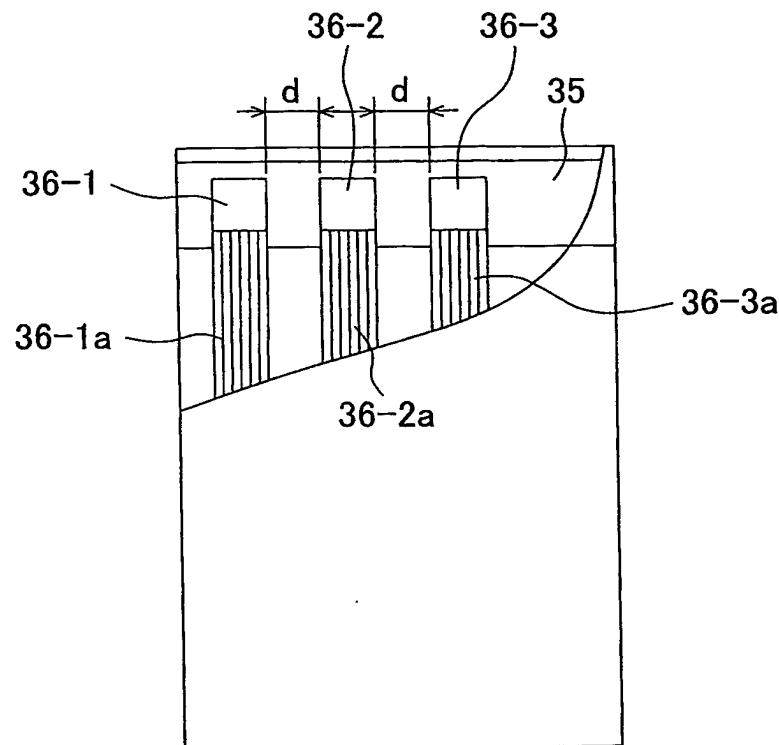


(e)

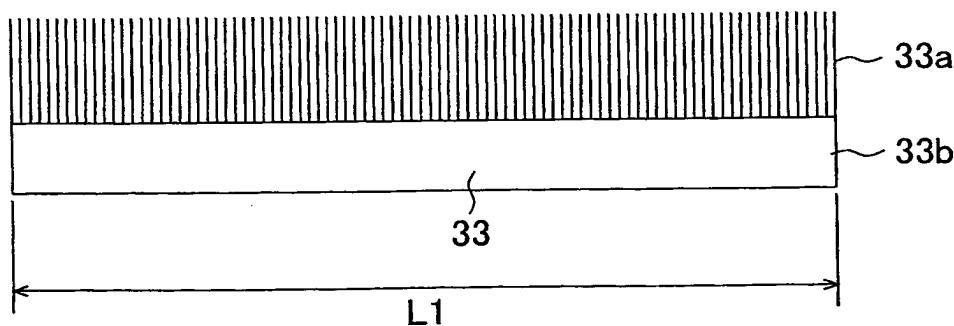


(f)

【図8】



【図9】



【書類名】要約書

【要約】

【課題】 石膏やセラミック粉のような微細な粉塵の多い環境下で、油分のない若しくは油分を嫌う環境下でも、防塵性能を発揮し、該粉塵が移動ブロック内に侵入することがなく、長寿命で且つ信頼性の高い案内装置を提供すること。

【解決手段】 長手方向に沿って転動体転走溝12-1～4が形成された軌道レール11と、多数の転動体を介して該軌道レールに相対移動自在に組み付けられた移動ブロック20とを備えた案内装置において、両側蓋22の相対移動方向外側に先端が軌道レール11の表面に接触するブラシ部材36を具備し、該ブラシ部材36で該軌道レール11表面に付着した異物を除去する端面防塵ブラシ25を取付けた。

【選択図】図2

認定・付加情報

特許出願の番号	特願2003-391215
受付番号	50301919550
書類名	特許願
担当官	第三担当上席 0092
作成日	平成15年11月21日

<認定情報・付加情報>

【提出日】	平成15年11月20日
-------	-------------

特願 2003-391215

出願人履歴情報

識別番号

[390029805]

1. 変更年月日

2002年11月12日

[変更理由]

名称変更

住 所

東京都品川区西五反田3丁目11番6号

氏 名

THK株式会社

Document made available under the Patent Cooperation Treaty (PCT)

International application number: PCT/JP04/017633

International filing date: 19 November 2004 (19.11.2004)

Document type: Certified copy of priority document

Document details: Country/Office: JP
Number: 2003-391215
Filing date: 20 November 2003 (20.11.2003)

Date of receipt at the International Bureau: 14 April 2005 (14.04.2005)

Remark: Priority document submitted or transmitted to the International Bureau in compliance with Rule 17.1(a) or (b)



World Intellectual Property Organization (WIPO) - Geneva, Switzerland
Organisation Mondiale de la Propriété Intellectuelle (OMPI) - Genève, Suisse